

カリキュラム Curriculum	文学研究科DC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for		種別 Subject type
903	文化人類学特別研究 <Advanced Special Studies of Cultural Anthropology>			演習
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)		開講期 Semester	開講時間帯 Day and time
文化人類学・宗教学・日 本思想史	佐々木 重洋(SASAKI Shigehiro)		秋学期 (F all semester)	木曜：6限
講義題目 Title	文化人類学特別研究(B)			
単位 Credit	2			
備考 Others	【授業開講形態(対面・遠隔の別)は以下のWEBページにまとめています。 URL:https://mado.adm.nagoya-u.ac.jp/hum_web 履修登録後に授業形態に変更がある場合には、NUCTの授業サイトで案内しますので必ず確認してください。 授業での使用ツ ールや遠隔授業(オンデマンド型)の場合の教員への質問方法・学生同士の意見交換の方法等についてもNUCTの授業サイトで案内し ます。】			
履修条件 注意事項 Requirements for registration	原則として、文化人類学専攻の大学院生および、他専攻でも佐々木が指導教員となっている大学院生(前期課程)を対象としま す。それ以外で参加を希望する方は、事前に佐々木まで相談に来て下さい。			
授業の目的 Purpose	参加者による個人発表と全体討論をつうじて、それぞれの個人研究を進展させるとともに、フィールドワークと民族誌記述の手 法を学ぶ。この演習は、博士論文研究 aと連動しておこなわれる。 The aim of this course is to help writing Ph.D. Dissertation of the participants. The participants are expected to progress each work through discussion and having critical comments by other course mates.			
授業の内容 授業の方法 Content	本演習は、A)各自のフィールド調査に基づいた研究発表と討論、B)関連する文献を用いた討論、を組み合わせ実施する。 参加者は、原則として1セメスター内にA)とB)をそれぞれ1回ずつ担当する。毎回、2名~3名の発表者がレジюмеと資料 を用意したうえでプレゼンテーションをおこなう。内容がA)であれ、B)であれ、発表者は単に自身の博士研究の進展をはかる だけでなく、常に「民族誌とはどのようなものか」、「人類学における記述と分析とはどのようなものか」という点に対する問題 提起を、参加者全員に対しておこなうように工夫することが求められる。 個人発表を受けての質疑応答、全体討論には十分な時間を確保する。教員とTAは、参加者どうしが活発に意見交換できるよ うな環境づくりに全力を注ぐとともに、質疑や討論の内容が、とくに発表者がその後、研究を発展的に継続できるような生産的な方 向に向かうように、適宜、助言する。			
教科書 テキスト Textbooks	適宜、指示する。			
参考書 References	適宜、指示する。			
受講生の 自宅学習 Preparation and review	何よりもまず、それぞれの個人研究を進展させること、そのための自習が重要である。それに加えて、せっかく多くの学友と時 間を共有するのであるから、他人の発表、自分の研究テーマとは異なる研究に対しても、それぞれの発表者の立場に立って「自分 ならどうするか?」と考え、学ぶ習慣をつける。			
成績評価の 方法と基準 Evaluation	平常点			

連絡方法
Contact
information

受講者確定後、参加者のメールアドレスを記した名簿を作成・配布する。